

さいたま市民政治意識調査

——調査結果の概要——

平成 26 年 3 月

埼玉大学社会調査研究センター
さいたま市選挙管理委員会

は し が き

さいたま市選挙管理委員会では、有権者の政治や選挙に対する意識、投票行動などを調査するため、「さいたま市民政治意識調査」を平成25年5月19日執行のさいたま市長選挙直後に初めて実施しました。

この調査結果を、今後の選挙事務の管理執行や選挙啓発の参考資料として大いに活用していきたいと考えています。

なお、本調査は埼玉大学社会調査研究センターと共同で行い、センター長である松本正生教授には、企画、実施、分析及び本報告書の執筆に当たり多大なる御尽力をいただきました。ここに厚くお礼申し上げます。

最後になりましたが、本調査の実施に当たりまして、御協力いただきました皆様に深く感謝申し上げます。

平成26年3月

さいたま市選挙管理委員会

目 次

1. 調査の方法と結果の概要・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
2. 調査結果分析の焦点・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
3. 調査票・単純集計結果・・・・・・・・・・・・・・・・11

1. 調査の方法と結果の概要

さいたま市選挙管理委員会では、平成 25（2013）年 5 月に、「さいたま市民政治意識調査」を実施した。本調査は、埼玉大学社会調査研究センターとの共同調査という形式で実施した。調査の対象者は、さいたま市の有権者 1,000 人で、さいたま市内全 10 区の有権者名簿から、各区の有権者数に比例する形で無作為に抽出した。調査方法は郵送法、すなわち、質問票を郵送で対象者に送付し、回答記入済みの質問票を郵送により返信してもらう方法を採用した。最終的な有効回収数および回収率は、694（69%）であった。

調査方法に関して、面接法や電話法など、従来の主流調査法が低回収率に直面する中で、郵送法は、近年、高回収率を見込める手法として注目され、報道機関をはじめ広範な調査実施主体において採用されている。今回の我々の調査についても、ほぼ 7 割という高回収率を確保することができた。回答を寄せてくださったさいたま市民の方々に、お礼を申し述べたい。

2. 調査結果分析の焦点

今回の調査は、さいたま市長選（5月19日投開票）の直後であったことから、同選挙での投票行動に関する質問を幾つか試みている。例えば、「市長選挙で投票したかどうか」に対しては「投票した」が52%（実際の投票率は38%）、「投票しなかった」が46%となっている。「投票した」と「投票しなかった」の比率が拮抗し、「投票しなかった」人たちの割合が46%と半数近くを占めている。今後の明推協の啓発活動に関する何らかのヒントを探求するため、以下の分析においては、「投票した」人と「投票しなかった」人との間の比較検討により、棄権の構造とその背景の解明に焦点を当てる。（なお、全体の結果については、別掲の一覧を参照されたい）。

先ず【表1】で、年齢別の結果を見てみよう。「投票した」人の比率は、年齢の上昇とともに増加する「若低－老高」型（「投票しなかった」人の比率は逆に「若高－老低」型）になっている。「投票した」比率と「投票しなかった」比率の大小関係は、20代～40代までは「投票しなかった」>「投票した」、50代～70歳以上では「投票した」>「投票しなかった」と、40代と50代を境とする逆転構造が存在している。

【表1】

(%)

		Q8. あなたは、5月19日の市長選で、投票しましたか。		
		投票した	投票しなかった	わからない
Q20. あなたのお年は満でおいくつですか。	20代	22	76	2
	30代	39	59	3
	40代	46	53	1
	50代	63	38	0
	60代	67	32	1
	70歳以上	60	38	2
合計		52	46	1

次に、年齢をさらに男女別に細分化（ブレイクダウン）した【表2】および【表3】を参照されたい。先の【表1】と同様に若年層での低投票率が確認できる。とりわけ、男性の20代の極めて低い比率（15%）が目立つ（【表2】）。単身の若年男性の地域社会へのアイデンティティの希薄さ、言い換えれば、投票への志向性の希薄さが類推できよう。

【表2】 (％)

		Q8. あなたは、5月19日の市長選で、投票しましたか。		
		投票した	投票しなかった	わからない
Q20. あなたのお年は満でおいくつですか。	男の20代	15	85	0
	男の30代	45	50	5
	男の40代	54	45	1
	男の50代	69	31	0
	男の60代	69	29	2
	男の70歳以上	68	30	2
合 計		52	46	1

【表3】 (％)

		Q8. あなたは、5月19日の市長選で、投票しましたか。		
		投票した	投票しなかった	わからない
Q20. あなたのお年は満でおいくつですか。	女の20代	30	67	4
	女の30代	35	64	1
	女の40代	41	59	0
	女の50代	56	44	0
	女の60代	65	35	0
	女の70歳以上	53	44	3
合 計		52	46	1

今度は、投票行動と「市政への関心」の関係について見てみよう。〔表4〕は、「投票の有無」と「さいたま市政への関心度」との関係を示している。「(市長選)に投票した」人のさいたま市政への関心度は、「非常に関心を持っている」=15%と「多少は関心を持っている」=56%の合計が71%となっている。これに対して「(市長選に)投票しなかった」人の市政への関心は、「非常に」=5%と「多少は」=37%の合計が42%と5割に満たない。逆に言えば、「あまり関心を持っていない」=47%と「全く関心を持っていない」=7%の合計の方が半数を上回っている。(市長選に)投票するか・しないかは、時々の選挙の個別事情もさることながら、もともとの市政への関心度との相関が高く、投票への誘因の一つとなっていることが確認できる。

〔表4〕

(%)

		Q4. それでは、あなたは、ふだん、さいたま市政についてどの程度関心を持っていますか。				
		非常に関心を持っている	多少は関心を持っている	あまり関心を持っていない	全く関心を持っていない	わからない
Q8. あなたは、5月19日の市長選で、投票しましたか。	投票した	15	56	25	2	2
	投票しなかった	5	37	47	7	3
	わからない	20	30	10	40	0
合計		11	47	35	5	3

【表5】は、「合併前の旧市間の地域対立が残っていると思うかどうかの認識」と「投票行動（投票の有・無）」とのクロス結果を示している。「（旧市間の対立が）非常に残っている」、ないしは「ある程度残っている」と答えた人たちの「投票した」比率は、それぞれ 59%、60%と比較的高い。一方、「全く残っていない」と回答した人が「投票した」比率は 39%で、逆に「投票しなかった」割合が 57%と多数を占めている。さいたま市は合併後すでに 10 年以上経過したものの、旧市間の地域対立への認識の存在が相応に存在しており、それが居住地域へのアイデンティティ（地元意識）の要素を構成していることが示唆されよう。

【表5】

(%)

		Q8. あなたは、5月19日の市長選で、投票しましたか。		
		投票した	投票しなかった	わからない
Q5. あなたは、さいたま市には、合併前の旧市間の地域対立が残っていると思いますか。	非常に残っている	59	41	0
	ある程度残っている	60	38	2
	あまり残っていない	51	49	0
	全く残っていない	39	57	4
	わからない	41	57	1
合計		52	46	1

なお、【表 6】で「今の日本の政治のあり方への満足度」と「投票の行動（投票の有・無）」との関連を見ると、「満足派（まあ満足）」－「不満派（やや不満＋かなり不満）」間には、「投票した」比率に関してそれほど大きな相違は存在しない（「かなり満足」と回答した人は僅かに1名に過ぎないため、考慮には入っていない）。むしろ、「どちらともいえない」と回答した人たちでの「投票した」比率が最も低くなっており、国政への認識と市政や市長選への関心との間には、あまり関連のないことがうかがえる。

【表6】

(%)

		Q8. あなたは、5月19日の市長選で、投票しましたか。		
		投票した	投票しなかった	わからない
Q1. あなたは、今の日本の政治のあり方に、どの程度満足していますか。	かなり満足	100	0	0
	まあ満足	63	35	1
	どちらともいえない	43	54	2
	やや不満	54	44	1
	かなり不満	54	45	1
	その他	25	63	13
合計		52	46	1

さて、ここで分析の視点を「投票しなかった」人たちにしぼると、やや気に掛かる傾向が見受けられる。【表 7】を参照されたい。これは「投票しなかった」人たちに「その理由」を複数回答で聞いた結果を、年齢別にまとめたものである。60代および70歳以上の比較的高年層の回答結果に注目すると、「選挙に関心がなかった」とする内的（意識レベルの）理由が他の年代に比べて低いのに対して、「体調がすぐれなかった」や「病気だった」とする外的理由の割合が高くなっている。この結果を【表 8】と【表 9】で男女別にブレイクダウンすると、男性（【表 8】）に関しては、70歳以上で「投票所が遠かったから」が17%と顕著に高くなること、女性（【表 9】）については、「体調がすぐれなかった」が70歳以上で28%と高く、60代でも22%を占めていること、70歳以上ではさらに「病気だった」が16%におよんでいることなどが判明する。いわゆる「投票弱者」と呼ばれる人たちの存在が明らかになるとともに、そうした人たちへの何らかのケアの必要性が示唆される数値であろう。

【表7】

(%)

		Q20. あなたのお年は満でおいくつですか。						
		20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	合計
Q8D. 投票しなかったのは、なぜですか。あてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。	仕事があったから	21	19	15	26	10	2	16
	重要な用事(仕事を除く)があったから	31	24	25	17	30	16	23
	病気だったから	0	4	3	0	8	14	5
	体調がすぐれなかったから	12	9	9	5	18	22	12
	投票所が遠かったから	0	3	1	0	0	8	2
	面倒だから	17	16	7	7	5	0	9
	選挙にあまり関心がなかったから	29	25	33	36	18	10	25
	政策や候補者の人物像など、違いがよくわからなかったから	19	31	15	24	23	26	23
	適当な候補者がいなかったから	7	10	9	24	15	8	12
	私一人が投票してもしなくても同じだから	10	3	12	10	5	0	7
	選挙によって政治はよくなるかと思わなかった	7	12	5	10	5	4	7
	今住んでいる所に選挙権がないから	2	1	0	2	0	0	1
	天候が悪かったから	0	0	0	0	0	2	0
	その他	7	10	12	10	5	8	9
わからない	0	0	0	0	0	2	0	

〔表8〕

(%)

		Q20. あなたのお年は満でおいくつですか。						
		男の 20 代	男の 30 代	男の 40 代	男の 50 代	男の 60 代	男の 70 歳 以上	合計
Q8D. 投票し なかったの は、なぜです か。あてはま るものをすべ て選んで番号 に○をつけて ください。	仕事があったから	26	23	17	33	12	6	16
	重要な用事(仕事を除く)があっ たから	35	27	23	6	24	17	23
	病気だったから	0	0	3	0	12	11	5
	体調がすぐれなかったから	9	0	10	0	12	11	12
	投票所が遠かったから	0	5	0	0	0	17	2
	面倒だから	17	9	7	11	12	0	9
	選挙にあまり関心がなかったか ら	22	23	27	28	29	11	25
	政策や候補者の人物像など、 違いがよくわからなかったから	13	23	23	22	24	33	23
	適当な候補者がいなかったから	0	5	10	39	24	11	12
	私一人が投票してもしなくても 同じだから	13	0	7	11	12	0	7
	選挙によって政治はよくならな いと思った	4	5	3	11	6	0	7
	今住んでいる所に選挙権がな いから	0	5	0	6	0	0	1
	天候が悪かったから	0	0	0	0	0	6	0
	その他	9	14	20	11	0	0	9
わからない	0	0	0	0	0	0	0	

〔表9〕

(%)

		Q20. あなたのお年は満でいくつですか。						
		女の 20 代	女の 30 代	女の 40 代	女の 50 代	女の 60 代	女の 70 歳 以上	合計
Q8D. 投票しなかったのは、なぜですか。あてはまるものをすべて選んで番号に○をつけてください。	仕事があったから	17	17	14	21	9	0	16
	重要な用事(仕事を除く)があったから	28	22	27	25	35	16	23
	病気だったから	0	7	2	0	4	16	5
	体調がすぐれなかったから	11	13	9	8	22	28	12
	投票所が遠かったから	0	2	2	0	0	3	2
	面倒だから	17	20	7	4	0	0	9
	選挙にあまり関心がなかったから	33	26	36	42	9	9	25
	政策や候補者の人物像など、違いがよくわからなかったから	28	35	9	25	22	22	23
	適当な候補者がいなかったから	17	13	9	13	9	6	12
	私一人が投票してもしなくても同じだから	6	4	16	8	0	0	7
	選挙によって政治はよくならないと思った	11	15	7	8	4	6	7
	今住んでいる所に選挙権がないから	6	0	0	0	0	0	1
	天候が悪かったから	0	0	0	0	0	0	0
	その他	6	9	7	8	9	13	9
わからない	0	0	0	0	0	3	0	

最後に、明るい選挙推進活動の認知度について見ておきたい。【表10】は、「明るい選挙推進協議会の存在を知っているかどうか」という質問への回答を年齢別にまとめている。認知度の低さは、全年代に共通しているものの、とりわけ20代～40代における比率は極めて低い。明推協はその活動のみならず社会への浸透度においても、60代以上の人たちにほぼ限定されると言わざるを得ない。今後の課題として明記しておきたい。

【表10】

(%)

		Q11. きれいな選挙の実現や投票率向上のために、市の選挙管理委員会と協力して活動する明るい選挙推進協議会があります。あなたはさいたま市・区明るい選挙推進協議会をご存知ですか。		
		知っている	知らない	わからない
Q20. あなたのお年は満 でおいくつですか。	20代	7	85	5
	30代	1	93	3
	40代	8	87	6
	50代	10	84	6
	60代	18	71	8
	70歳以上	17	69	10
合計		11	81	7

さいたま市民政治意識調査

——調査結果の概要——

平成 26 年 3 月発行

企画・分析 埼玉大学社会調査研究センター長 教授 松本 正生

編集・発行 さいたま市選挙管理委員会

〒330-9588

さいたま市浦和区常盤6丁目4番4号

電話番号 048-829-1773

メールアドレス senkyo@city.saitama.lg.jp

この冊子は300部作成し、1部あたりの印刷経費は60円（概算）です。